

施工のポイント

参考資料：壁装施工団体協議会発行「素晴らしい壁紙に素晴らしい技術」

下地の調整について

下地の平滑化

以下の商品は、下地を平滑にするための下地調整に手間がかかるため、施工費が割高になります。

薄手のもの

シボ(凹凸)の浅いもの

光沢のあるもの

表面強化品

不燃認定壁紙

前工程の問題が残っていてそのまま仕上げられない場合、現場管理者に申し出て改善した上で施工する必要があります。

下地の調整

コンクリートやモルタル下地は充分に乾燥させてください。(水分計での含水率8~11%以下。)

石膏ボードのGL工法の場合も下地を充分に乾燥させてください。(水分計での含水率11%以下。)

コンクリートやモルタルの表面に水分がくるとすぐにアルカリ性を示します。また、冬場は表面が粉をふいた状態になることがありますので、シーラーを適切に塗布することが欠かせない条件となります。

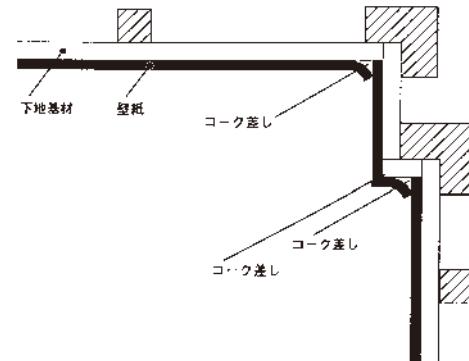
コーティング処理について

コーティング剤の用途

- ① 下地の隙間に充填して隙間を埋める。
- ② 天井と壁面の見切りの接着補強に壁紙の裏面に差す。
- ③ ドア枠、窓枠廻りなどとの見切りに、接着補強のため壁紙の裏面に差す。
- ④ 入隅のコーナー部分の接着補強のため壁紙の裏面に差す。

コーティング剤は、元々隙間を埋めるためのアクリル系樹脂であり、粘着性を保っていることで下地材の動きにも耐えられる特長を有しています。

但し、壁紙の表面に用いた場合、ホコリ等が付着し変色することがありますのでご注意ください。



捨て糊について

捨て糊は、塗布した接着剤だけでは不充分であり、接着に不安がある場合、または要部に補強の接着剤を利かしてしっかりと押さえ込む必要がある場合に用いるものです。

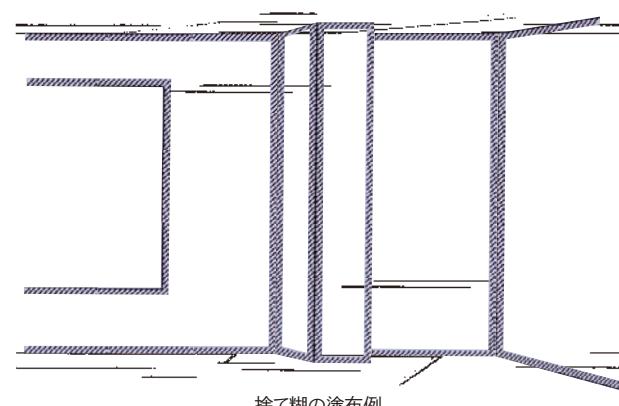
捨て糊を必要とする場合

- ① 下地がシナベニヤなど樹脂分があり接着を妨げる要素がある場合、また、プリント合板などでんぶん系接着剤だけでは接着し難い場合は、表面をサンダーで荒らし、シーラー塗布、捨て糊するなどが効果的です。
- ② 表面強化、汚れ防止等の機能性壁紙や薄手の商品で材料が硬い場合、ジョイント部、入隅、出隅の施工に捨て糊を必要とする場合があります。

捨て糊用接着

現場の事情(下地・壁紙)に応じて、下記の合成樹脂エマルションの原液をそのまま、あるいはそれにでんぶん系接着剤を適切に配合するなどしたものを用います。

- ① エチレン・酢酸ビニル樹脂エマルション
- ② 酢酸ビニル樹脂エマルション
- ③ アクリル樹脂エマルション



捨て糊の塗布例